

醸造協会



10月号をお届けします。執筆時点ではまだ9月ですが、9月の声を聞いた途端、東京は秋雨前線の影響で雨の日が多く、最高気温が25度以下の日が続きました。通勤時にも長袖シャツと上着が必要なほどでした。9月4日に気象庁は東京都に低温注意報を発表しましたが、この時期の低温注意報は28年ぶりだそうです。農作物への影響が懸念され、スーパーなどの野菜類は以前より高くなっているように感じられます。

新型コロナウイルスの第5波は、以前とは異なる様相の大量感染となり、8月下旬には全国の感染者数が2万5千人を超え、東京都でも5千名に達しました。9月中旬には全国が1万名以下、東京都が千名前後まで減少しましたが、重症者数は高いレベルであり、医療のひっ迫も続いています。緊急事態宣言も、東京都を含む19都道府県で9月30日まで延長となりました。飲食店は苦しい状況が続き、通勤途上でも酒類提供を中心とする飲食店の休業の張り紙が目立つようになりました。一方で政府は、希望者へのワクチンの接種が完了する11月ころを目途に、酒類の提供や旅行などの行動制限を緩和する方針を打ち出しました。ワクチン接種の効果があがって感染者が減り、すこしでも日常の生活がもどってくることを望むばかりです。

さて、醸造協会は、国重要文化財の旧醸造試験所第一工場（赤煉瓦酒造工場）の管理を行っていますが、赤煉瓦酒造工場をご利用いただく際にご不便をおかけしていたのが、トイレが操業当時の従業員用のものしかない点でした。そこで、皆様からいただきました赤煉瓦酒造工場整備事業寄付金を活用して、新たなトイレを設置いたしました。場所は、旧ボイラー室から原料処理室に出た所の右手です。工事は4月から8月までで、先日完成引き渡しが行われました。構造的には、赤煉瓦の一部を残したり、酒造工場の屋根が見えるような配慮がなされています。



また、入って右手の壁面には、明治37年設立当時の赤煉瓦酒造工場の写真および醸造試験所建物配置図、大正3年の醸造試験所全景の写真が印刷されています。入って左手正面の絵は、高橋直子氏作の赤煉瓦酒造工場の絵画の複製写真です。これらについては、独立行政法人酒類総合研究所に資料をご提供いただきました。

本格的な酒造期が間近に迫っていますが、本会では、9月1日（水）から11月30日（火）までの期間限定で醸造用水の分析を通常料金の半額で行っています。分析項目は、pH、全鉄、マンガン、リン酸、カリウム、クロール、全硬度、有機物、亜硝酸性窒素、アンモニア性窒素、一般細菌、大腸菌群の12項目で、試料一点につき通常分析料金の半額の税込26,125円（非会員の方は2割増し）となります。酒造期前の水質のご確認にどうぞご利用ください。

また、焼酎講演会は、例年、独立行政法人酒類総合研究所の本格焼酎・泡盛鑑評会の製造技術研究会に合わせて開催しておりましたが、本年はオンラインで9月15日（水）から11月15日（月）まで開催しております。演題は、第44回本格焼酎・泡盛鑑評会の開催状況、香りによる本格焼酎の差別化と製品開発～別府大学・香り米を用いた焼酎及びサツマイモ品種の異なる芋焼酎の多様化と最近の香り研究の話題～、大麦焼酎・焼酎粕研究に関する最近の話題、交配による焼酎酵母の育種、です。参加費は、1名分税込8,800円で、テキストのダウンロードも可能です。社内研修等にぜひご利用ください。